

年度 2008 学期 後期	曜日・校時 木曜日 1 時限目	必修選択	必修	単位数 1
授業科目/(英語名)	英語コミュニケーション II English Communication II			
対象年次 1	講義形態 演習	教室 125		
対象学生(クラス等) M11	科目分類 外国語科目(英語)			
担当教員(科目責任者) / E メールアドレス/研究室/TEL/オフィスパワー 担当教員: 藤内 則光 /Eメールアドレス: fujiuchi@tc.nagasaki-gaigo.ac.jp/研究室: 非常勤控室 /TEL: 095-840-2000 (ex335) /オフィスパワー: E メール、外語大 335 研究室にて随時・要確認				
担当教員(オムニバス科目等)				
授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標 授業のねらい: この授業では、伝達手段としての英語の基本的な技能と、特に読解能力と聴取能力の相関関係を解説した後、読解と聴解の能力を総合的に向上させる訓練を行う。最終的には、「読んで分かる英語」から「聞いて分かる英語」へと、受講生の英語力を向上させる。  授業方法: LL 教室の機材を適宜活用し、与えられた英語のテキストの音読を主体とした訓練方式。  授業到達目標: CNN 放送を聞いて内容を説明できる程度の英語運用能力の獲得を目的とする。				
授業内容(概要) / 授業内容(毎週毎の授業内容を含む) 授業内容(概要) 教科書は主教材と副教材の二種類を使用する。授業開始当初は副教材を用い、基本的な英語の聴解とディクテーション、適宜発音指導を行い、採点結果を出席した証拠として回収するとともに、提出物として平常点に加算する。 主教材は、主に現代日本の時事に関するNHKの衛星放送を題材にしたDVD教材。第1回目のオリエンテーションにて受講生のリクエストを募り、以降、そのリクエストどおりに授業を進行させる。教科書にある英作文を課題として課し、提出させる。 受講生は主教材付属の DVD を見て、事前に予習をすること。授業の進行が明確に分かっているため、欠席者は次の授業の準備をすること。DVD を見る装置が自宅にない場合でも、図書館を利用するなどの方策を自分で考えること。教科書は設問に解答するだけでなく、英文のナレーション、リプロダクション、オーバーラッピング、シャドウイングにも使用するので、本文の音読を予習や復習に取り入れること。空所が全て補充されたスクリプトを見て、内容を理解出来る程度の復習を前提にします。 第1回 オリエンテーション、座席決定、教科書販売、講義の心得確認 第2回 副教材 Lesson 1、主教材 教科書 Unit 1、新章へ 第3回 副教材 Lesson 2、主教材 教科書1課、新章へ 第4回 副教材 Lesson 3、主教材 教科書1課、新章へ 第5回 副教材 Lesson 4、主教材 教科書1課、新章へ 第6回 副教材 Lesson 5、主教材 教科書1課、新章へ 第7回 副教材 Lesson 9、主教材 教科書1課、新章へ 第8回 副教材 Lesson 14、主教材 教科書1課、新章へ 第9回 副教材 Lesson 17、主教材 教科書1課、新章へ 第10回 副教材 Lesson 18、主教材 教科書1課、新章へ 第11回 副教材 Lesson 19、主教材 教科書1課、新章へ 第12回 副教材 Lesson 21、主教材 教科書1課、新章へ 第13回 副教材 Lesson 22、主教材 教科書1課、新章へ 第14回 副教材 Lesson 23、主教材 教科書1課 第15回 定期試験及び総括  最終試験は難しいので、常に復習を怠らないように。				
キーワード				
教科書・教材・参考書	主教材: What's on Japan 3 (金星堂)  副教材: Short Listening for Travel (成美堂)			
成績評価の方法・基準等	全て主教材より 定期試験 80%(単語理解 8%・聴解 8%、本文内容ディクテーション 21%(部分点なし)、内容理解 13%、課題英作文 10%(部分点あり)、英語による意見論述 10%を含む) 平常点 20%(英作文提出と副教材解答結果提出)			
受講要件(履修条件)	教科書を購入し、英和辞典を必ず携行して授業に臨むこと。			
本科目の位置づけ / 学習・教育目標				
備考(準備学習等)	DVD を見て、放送を一通り音読で真似てみる程度の事前訓練をしてください。			